

令和5年度 第2回 沖縄県 SDGs アドバイザリーボード会議
議事概要

○日時：2024年3月27日(水) 14:00～16:00

○場所：沖縄県宮古合同庁舎

○出席者：

(委員) 玉城座長、蟹江委員、佐野委員、島袋委員、平本委員、淵辺委員、和田委員

(沖縄県) SDGs 推進室 平良室長、知念主幹

(宮古島市) 友利主任主事

(玉城座長)

委員の皆様が揃いましたので、始めさせていただいてよろしいでしょうか。ではお願いいたします。

(事務局)

最初に、資料の確認からさせていただきます。資料1. 沖縄県内 SDGs 進捗状況のモニタリングの概要、資料2. 2023年度沖縄県 SDGs モニタリング報告書概要、資料3. 2023年度沖縄県 SDGs モニタリング報告書(案)、資料4. 令和6年度の SDGs に関する取組について、資料5. 宮古島市のプラットフォーム概要説明資料と、追加資料として事前に委員の皆様よりお伺いした意見の一覧を準備しております。

本日は、北村委員からはご欠席のご連絡を頂いており、7名の委員の皆様にご参加いただいております。それでは議事の進行を玉城座長にお願いしたいと思います。よろしく願います。

(玉城座長)

皆様、おはようございます。ようこそ宮古島までお越しくださいました。

宮古島での開催は、私からも提案させていただきました。今年から外国につながる子ども達の支援を実施しております。県立学校に在籍する外国籍の生徒のケアのために宮古島に通って参りました。

宮古島というと、やはり観光の島ということで、世界一と言われる美しい海や独特の文化があります。沖縄と宮古島では地域性や言葉も違いますし、使っている概念にも違いがあると思います。その宮古島で今何が起きているのかというと、外国人が増えてきている。人口減少で働き手が減る中で経済界、観光業等に従事する親に連れてこられた外国人の子ども達も増えてきています。沖縄だけでなく、日本でも起きている色々な問題が、この小さな島でも起きている。

小さな島の中で循環型経済に取り組むため、プラスチックや海外からの漂流ゴミの問題

などの課題から、どのように島を守っていくかを島の皆さんが試行錯誤して取り組んでいます。SDGsでは30年後の未来に向けて取り組んでいます。宮古では「千年プロジェクト」といって、千年先を考えた様々なプロジェクトに取り組まれていて、とても素晴らしいという側面と、現在の島で起きている現実への対応を繰り返している。そういう宮古の方々が頑張っている姿を部屋の中だけで会議しているだけでは、沖縄の本当の姿は見えないのではないかとということで、宮古島に来ていただきました。

宮古は小さな島々からなる地域です。その地域が日本でも外国の方への最先端のケアをしている。この後の視察では、小さな公民館に行ってください、地域のソーシャルワーカーの方に取組を伺いますが、こういうところで沖縄、日本の経済を（外国の方々が）支えているということを実際を感じていただけたと思います。

ここからまた沖縄らしいSDGs、来年度にあります全国フォーラムに向けて、いろんなご意見を皆様から頂けるとお思います。

前置きが長くなってしまいましたけれども、進めていきたいとお思います。今日は皆さんからたくさん意見を頂ければとお思います。それでは事務局の皆さん、資料の説明をお願いいたします。

（事務局）

おはようございます。朝早くからご足労いただき、ありがとうございます。時間が限られておりますので、ポイントを抑えて資料を説明した上で、大きく、モニタリング報告書に関するお話と次年度の取組、全国フォーラムの話も含めてお話しさせていただきます。

モニタリング報告書について、資料1、2、3がございますが、ポイントだけご説明させていただいたのちに、事前に頂いた委員の皆様のご意見に対して、考え方の整理というのを追加資料として一覧表で配付しております。A3縦の資料でございます。こちら、事前に配布したかったのですが、最後の委員のご意見が一昨日でしたので、まとめが間に合いませんので、本日配布ということになっております。ご容赦いただければとお思います。

それでは資料1から、掻い摘んでご説明させていただきます。まず1ページ目ですが、モニタリング報告書の概要をバックグラウンドという考え方でまとめております。1つ目に国内の状況ですが、ご承知の通り、去った12月に国の実施指針が改定されたところでございます。その中で、ガバナンス手法もしくは達成に向けた取組をしっかりと測定すること、またローカル指標を設定すること、こういったところが地方自治体に期待する取組として記載されたところでございます。一方で2つ目、沖縄県の状況ですが、2021年9月に沖縄県SDGs実施指針が、万国津梁会議、さらにSDGsアドバイザリーボード、こちらの会議で議論いただいた上で決定されております。その指針の中でも、取組状況等のモニタリングとか、透明性を持って点検してフィードバックを図るところは、専門部会、アドバイザリーボードの役割として位置づけているというバックグラウンドがございます。

こういったことも含めまして、昨年3月に沖縄県SDGs推進本部の中で2023年度から毎

年度、モニタリング報告書をまとめて報告するということで確認をさせていただいております。今までの流れで最初のモニタリングをまとめたという経緯となっております。

2 ページ目をご覧くださいと、上の方がモニタリングの実施です。SDGs 専門部会が 5 部会ございまして、全部で 30 名の委員でございます。この方々の意見と本日アドバイザーボード会議の意見を聞きつつ、モニタリング報告書を作成し、推進本部へ報告する、そういった準備をしております。

3 ページ目をご覧くださいと、モニタリング報告書の構成でございます。1 章から 3 章までは前段の話で、実質的には 4 章の方にまとめております。こちらは、17 のゴールごとのモニタリングという視点と、このアドバイザーボード会議でご議論いただいた、おきなわ SDGs アクションプランのモニタリング、この大きな二つの視点で整理をしております。もともとは、アクションプランのモニタリングというところを中心に報告書をまとめようということで議論していたのですが、昨年度来 SDGs 専門部会の中で 17 のゴールごとにモニタリングをして、一般向けに示してほしいという意見が非常に強かったので、1 と 2 に分けて取りまとめをしたというのが経緯でございます。合わせて専門部会の中でモニタリングに加えて、取組事例とか何をしているのかというのをまとめたほうが良いという意見がございまして、5 章の方で大きく 2 つございますけれども、県側、どちらかという SDGs 推進室の取組を中心にまとめております。あと、プラットフォーム会員による色々な取組がありますので、ベストプラクティスではないですけども、主だった取組というところで紹介しております。この構成で毎年報告書をまとめて公表していくことを予定しているところでございます。

4 ページ目の指標選定に当たってというところで、ここは 17 のゴールのモニタリングに必要な指標を設定したわけですが、これはアクションプランを作るときの指標設定の議論と非常に重なりますが、バックグラウンドとして 17 ゴールごとのモニタリングですので、内閣府地方創生ローカル指標リストを参考にさせていただきつつ、加えて国連地域開発センターの方で SDGs 達成度評価指標を設定して、いろいろとモニタリングを設置していただいているところもありますので、こういったところを資料として参考にさせていただいたという経緯がございます。この内閣府のモニタリング指標はご覧になっている方が多いかと思うのですが、指標数は 200~300 位と非常にたくさんございますので、これを毎年毎年、全部モニタリングするのは、ちょっと現実的ではないというのが一つ。年次毎、毎年データが取れる指標というのが実は意外と少ないところでございます。例えば国勢調査に係る経済センサスとかも 4 年に 1 度とかですね、そういったところを踏まえると、割と絞られてくるのが一つの視点ですので、上の方の、国連 SDGs のターゲットで、地域課題を視野によって絞り込んでいこうということで、17 のゴールごとのモニタリングをやって欲しいという専門部会の意見としては、全体的な比較をしてほしいという話もありましたので、全国値との比較が可能な共通指標を主な指標として選定しております。

ただ、一方で共通指標だけだと、沖縄の特徴、地域課題が抜け落ちている部分があるの

ではないかというご意見もありまして、ローカル指標という形にしていますけれども、全国値がない統計データというのもまた別途あったりしますので、そこは補完的な指標として選定したという経緯がございます。こちらの方はあくまでも視点のキーワードでございますけれども、17のゴールに対して、どっちが共通指標、どっちがローカル指標ということではございません。両方踏まえながら指標をセッティングしていく中で、毎年データが取れるものという視点と、全国比較ができるかできないかというところで、ローカル指標と共通指標を分けて整理していたという経緯がございます。

補足させていただくと、SDGs 専門部会でも非常に議論が分かれておりまして、ローカル指標、つまり地域課題に沿った指標は非常にたくさんあるので深掘りしていきますと、特定の地域課題を強調して見せるようなモニタリングになるのではないかというご意見もありまして、もう少し SDGs という観点で客観的にやってほしいと。例えば、住宅だったら住宅で、どんどん住宅の課題というところに深掘りできるのですけれども、住宅の課題がたくさんあるようなモニタリングをするのか、環境・経済いろいろあるはずなのに、という話もありました。ローカル指標については、SDGs 専門部会の中でも議論が出てきたところで、まず毎年データが取れるものというところを精査しながら、一気に全部入れようとするのがフリーズしそうなので、徐々に入れていくというところで、毎年議論しながら進めていこうというところでございます。

5 ページ、6 ページ目はローカル指標をまとめたものでございます。こちらも事前にご覧いただいているかと思っておりますので、説明は割愛させていただきます。こういった表示方法で整理させていただいております。

次に資料 2 について説明させていただきます。モニタリング報告書が分厚くなりましたので概要版を作って欲しいというご意見が多くございました。報告書の内容を抜粋したものになります。1 ページ目はモニタリング報告書とは何かをまとめ、2 ページ目のほうに 17 のモニタリングの全体像を示しています。これは設定した指標の結果を図式化しているというところですので、これを見て沖縄県が進んでいないという議論は、ミスリードがあるのではないかという議論が SDGs 専門部会でも多々ありましたが、報告書の全体像を掴んだ上で個々のゴールの方に入っていただくという、キャッチャー的な要素として、こういったものが必要だという意見も多かったので、トライアルの視点も含めて、こういった示し方をさせていただいているところです。委員の皆様には、事前に資料をお送りさせていただいた経緯があり、その時のパネルのイメージとはずいぶん変わっています。その時は全国と比べて進んでいるゴールとか進んでないゴールというような整理をしましたが、さすがに指標選定の仕方と結論がかなり飛躍していないかという議論があったので、結果として、少し抑制的にこういった、進捗度をグラフ化するというところに落ち着いたところでございます。

3 ページ目がアクションプランのモニタリング報告書です。こちらも進捗度を図式化しています。モニタリングで、アクションプランで進展しているように見えるというご意見が

ございました。これにつきましては、指標設定でこれだけ変わるというところでございまして、上の方の 17 ゴールのモニタリング、こちらで設定した指標については、アウトカムに近い指標を使っております。下のアクションプランの方は、いろいろな議論もありましたけれども、ローカル指標を設定して実際に活動していくという指標になっていますので、どちらかという活動指標に近い指標が多く含まれています。

そういう意味では、それに沿って取り組んでいるので、進展が見られるといった特性があると思います。これは、結果としてこうなったということでございますけれども、そういう特性が逆に言うと、こういった全体像を見ると表れているという結果となっております。4 ページ目の方が、取組内容をいくつか抜粋しているものでございます。

資料 3 の方はボリュームが多いので割愛させていただいて、早速、委員の皆様から頂いたご意見に対して少しご説明させていただきます。追加資料をご覧いただくと幸いです。章立てとして、17 のゴールごとのモニタリングについてのご意見、アクションプランに対するご意見、その他と、大きく 3 つのまとめにしております。

まず 17 のゴールごとのモニタリングについて、上から順番に説明させていただきます。

佐野委員の方から、パネル化について誤解を生じないか。まさに議論が出ていて、なるべく誤解のないようにというお声がありますけれども、パネル化について、必要だというご意見もあったので、まずは、こういった形で表示しながら、来年度作成する中で整理していこうと思っております。

2 番目のご意見について、事務局の対応の考え方といたしましては、基本的には、ローカル指標全部にいれるという議論もありましたが、有識者議論を優先しながら入れていこうかなというところがありまして、SDGs 専門部会でこういう（指標）が必要だという議論の中で、全国のデータが取れるかどうかというところも整理した上で入れていく、これは毎年議論して増やしていくというところで整理していこうと思っております。

あとは、ゴール 3 とゴール 10 のところでございますけれども、この辺はローカル指標の選定の考え方等について説明を加える方向で整理していこうと思っております。

あと、4 番でございまして、「～取組を促進する必要がある」。こういった抽象的な分析というか、コメントを書かせていただいております。ここはご意見踏まえて若干修正させていただいたところもございまして、なかなか時間的に手が回らなかったところございまして、来年度の作成の中でこういったところを関係部局と調整しながら進めて参りたいと思っております。

5 番のほうも、分かりやすい表現を検討しているところでございます。佐野委員のご意見はこういった形で整理させていただいております。

島袋委員のほうからは、6 番の意見でお褒めいただきありがとうございます。7 番の方は、基本的には「新・沖縄 21 世紀ビジョン実施計画」との関係がわかりづらいというところでございます。我々の考え方としては、まず SDGs のモニタリングはアクションプラン、実施指針に基づいて展開しているというところが一つと、基本的にアクションプランは、み

んなで取り組んでいきたいと思いますというアクションプランになっておりまして、県の施策云々ということではなくて、いろいろな取組、皆さんの方向性を議論して行く、その一助になるモニタリングをして行きたいと思います、そういう考え方で整理しているというところでございます。毎年毎年アクションプラン指標がデータ取得できないものがありまして、モニタリング報告書、こういった形でございますけれど、調整しながら考えていきたいところでございます。

2 ページ目の方でございますけれども、島袋委員の方から質問としては8番から9番と、いくつか頂いておりますけれども、考え方としては一つにまとめて整理しております。ご意見のところはちょっと割愛させていただきますが、ご質問のところの対応としては、モニタリング報告書は県内の状況を共有するものとして整理していくことが一つ前提としてございます。指標についても実施計画の指標との整合をとっている物も当然ございます。この辺は指標の立て方を検討すべきというご意見も重々承知しております。とは言え、実施計画との関係でラインが違ってきたりするところもありますので、そういった具体的に動かしている関係者と情報共有したり、研究しているというところでございます。

10 番の島袋委員のご意見で、主要指標（最終アウトカム）に変えるべきではないかということだと思います。こちらの方は実施計画・基本計画の関連になりますので、関係者と検討しながら来年度進めていきたいと思っております。

11 番、淵辺委員から頂きました、65歳未満の死亡者数の考え方でございます。この辺については、専門部会から追加すべきではないか、というご意見が出て整理したところでございます。人口比で比較すると、前年比として全国比較ができるのではないかというご意見を頂いて、来年度、再整理した後、こういった表記ができるか検討したいと思っております。一旦はこの形で整理させていただければと思っております。

一人当たり県民所得の数値についてはご指摘の通りでございますが、まだ全国値が出ていないようです。全国比較ができる数値となると、一つ前の数値になるというところで、恐縮ですけれども、今のデータで進めさせていただきたいと思っております。来年度の報告書の中で最新値に更新していきたいというところでございます。

玉城座長の方からは、これは前向きに発信できるように整理して行きたいと考えております。国連の報告書の関係になりますけれども、ご存知の通り、ボリュームがかなり大きくなってきましたので、HPで公開するときには、国連の資料を参考資料として付けて一緒に発信していくという形で考えたいと思っております。

3 ページ目の方でございますけれども、和田委員の方からいくつか頂いております。例えば on track をどういう風に改善して行くかというところですが、アプローチの仕方やかを研究しているところです。ここはそういった視点で何ができないか研究しながら検討させていただきたいと思っております。2 番目でございますけれども、17 ゴールを分かりやすく説明するようにということで、内閣府の指標リストが非常に多かったという経緯がありまして、地域課題を踏まえながら絞り込みを行ったというところでございます。

趣旨というところですが、都道府県の状況を比較できるようにというところが、まず17のゴールのモニタリングをする意義でした。専門部会からのご意見でしたけれども、何かしら全国比較できるようにして欲しい、というところから始まりました。そういったことも踏まえつつ、補完的な指標として報告書指標を設定しているところがございます。

トライアルな面もありまして、他の都道府県、自治体のモニタリング関係のいろいろな取組事例も調査したところがございますけれど、ここまでしっかり踏み込んでやっている事例があまりなくて、なかなか参考にするものがなかったというのが結果でございます。

そういう意味では、あまり事例のない取組ということで、試行錯誤でやっている段階ということを自分たちでも認識しておりまして、やりながらになりますけれど、来年度の作成はこういったところももう少し整理したいと思います。

あと、ご覧になっているかもしれませんが、全国値との比較について、おっしゃる通りなので、矢印を三角に修正して、より伝わりやすい表現をさせていただきました。

最後に、「取り組む必要がある」とい表現を「取り組む」という表現にしてはどうかというところがございます。これも来年度の作成の際に、関係者もコミットさせるというプロセスも必要なので、来年度の作成の際に対応させていただければと思います。10番の所は、ご指摘のところ、整理させていただきました。

最後の方、まず、17のゴール、水とトイレの全体像のところ、割と進展しているように見えるところですが、要因が人口減少によるものなのか、下水道普及率なのかというご質問です。割と下水道普及率が浸透しているようです。ここは補足が必要であれば、資料を提供させていただきます。よろしくをお願いします。

あと、人口減少とDXの関係ですが、リモートワークとかワーケーションとか、そういった視点で移住定住をアプローチから地方創生の取組が進められております。以前はテレワークとか、そういったリアルな言葉を使っていましたけれども、DXという形で整理させていただいております。

6ページの方をご覧ください。こちらの方からは、SDGsアクションプランのモニタリングにご意見をいただいております。

アクションプランのモニタリングは重要であるという認識の中で、SDGsのモニタリングというところなのですが、17のゴールごとのモニタリングを説明して欲しいという専門部会の強いご意見があったということを踏まえると、一旦この構成でさせていただいて、必要に応じて議論しながら見直しをしていくという形にさせていただければありがたいと思います。

矢印のところはトリッキーではないかというご意見を頂いたのですが、ビジュアル化のメリットを少し整理したほうがいいのかというご意見で、おっしゃる通りでございます。ただ、ビジュアルをわかりやすくして欲しいというご意見が強くて、まず、いろいろ試行錯誤してここに落ち着いた経緯がございますので、報告書をまとめて説明していく中で、また色々ご意見とかご懸念とかご指摘が出てくるかと思っております。そういったところ

を踏まえながら整理していければと思っているところでございます。

あと、島袋委員のところからは、3つのご意見に対応案を1つまとめております。事務局対応の方を説明させていただくと、まず全国比較可能な目標・指標、こちらについてはアクションプランの策定の際に関係者と議論を行っております。アクションプランを作る際に非常に議論に時間がかかるというところもあって、基本的には現行の実施計画、個別計画を踏まえながら整理しております。指標設定にあたっては、専門部会で議論いただき、こちらのアドバイザリーボードのほうで提示させていただき、推進本部に諮り、一旦こういう形で決定しております。このアクションプラン、今回が初めての評価になります。こういった評価をさせていただいてうえで、アクションプランの見直しということ視野に入れますと、今回の報告書でアクションプランを直すのかということ、急すぎるのではないかと。いくつかの軌道修正は必要であると思いますが、基本的な見直しも含めると、数回、今の指標設定に沿ってモニタリングした上で中期的な評価を整理していくという形になるかと思っています。これからの見直しというところは、もう何回かアプローチを見てから検討させて頂ければと思います。

あと6、7のご意見につきましては、先ほどご説明した17ゴールについて、アウトカムの要素が強いので、活動指標に近いアクションプランの指標とは違っているように見えるということで、説明させていただきたいと思います。

目標値に対する達成度について、コメントを頂いておりますけれど、目標値の達成度は図式化しておりませんで、始まったばかりのところがあります。表の中には記載がございましたので、指標の中のデータを見ていただくということになろうかと思っています。目標値の設定のあり方について、ご意見もございませぬけれども、アクションプランを作るときに目標値の設定の仕方に課題があると認識しながら、まずは作って始めようというところから始めさせていただいたというのがございます。特に課題としては目標年がバラバラである。例えば令和6年ぐらいを目標年にしているものがあれば、令和13年を目標年にしているものもあって、これを達成度で一律に評価するというのも、全体を合わせるときにはどうか、というところで、個別指標ごとの目標達成度というのがございます。一旦これで整理させていただければと思います。

8番目のご意見、淵辺委員から頂いております。在留外国人の人数が増えているというところが、共生社会の指標として適切なかどうか。まさにおっしゃる通り、これは散々議論がありましたが、外国の方々を含めた共生社会の指標を探るのがなかなか難しいところです。今、実施計画の中で、一旦、こういった指標が設定されているので、これで整理させていただいたという経緯があります。在留外国人の方が増えているという中で、環境が整っていくべきだという前提ではあります。課題があって、それを見える化する必要があるということは重々承知しておりますが、統計データとして毎年しっかりと抑えられるところが、不勉強で見つかっておりません。ここはまた検討しながら、必要に応じて入れ替えたり追加したりということを考えていければと思っております。よろしくお願ひします。

あと和田委員から 3 つ頂いております。この加重平均については少し研究させていただきながら検討させていただきたいと思います。あと定性的な指標について、数値目標を立てて定性的な表現を達成するかというところが関係しているところです。来年度、作成の中でこういった指標を検討させていただければと思います。あと離島の件はマイナスということでございます。

あと、過疎地への流入について今のところ県内の移動か県外の移動か、明確に整理できるデータがなかったので、ここは少し探しながら何かいい資料がないかということで検討しています。

6 ページでございますけれども、5 章についてご意見を頂いております。佐野委員からお褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。

2 番目の方は玉城委員からイベント等もあるということで、いろいろな情報がございますので、うまくプラットフォーム活動の中で取り上げられないかなという点でございます。今は、事務局で取材した活動を中心にしておりますが、会員が自主的に載せるかということもあります。どれだけいろいろな活動を調べて入れられるか、引き続き検討させていただければと思っています。

あとは和田委員の方から、活動写真が多く掲載されているところにお褒めの言葉をいただいております。それから、自由意見の中で励の言葉が多々ありましたので、非常にありがたく受けとめさせていただきました。佐野委員からは今日の議論をしっかりとやっていきましょうということコメントいただきましたので、ぜひよろしく願います。

島袋委員の方からは、いろいろありますということでございます。結果として、報告書のボリュームが大きくなったというのが庁内でも課題となっておりまして、毎年作るのもシンプルで、完結にぱっと読めるものがないのではないかという意見もあったのですが、結果として、これだけのボリュームになってしまいました。ここについても今後、整理していこうと思っております。

玉城委員の方からもイラスト等がわかりやすいとのコメント、非常にありがとうございます。

5 番ですけれども、作成者は誰になるかということで、これはモニタリングを誰がするかということと、報告書の作成者は誰なのかということと、色々ありますが、実施指針ですと SDGs 専門部会がモニタリングをするという建付けになっているのですが、報告書の作成自体は沖縄県が作って発信するという形にさせていただきたいと思います。作成の中で、専門部会の中でいろいろなステークホルダーの方々が、自由に意見を言っていただいて、そういうプロセスも含めモニタリングと認識しております。

6 番ですが、モニタリング結果を踏まえたアクションプランの見直しというところですが、モニタリング結果を踏まえて色々な主体がこれをもとに、それぞれの活動を見直しや新たなアプローチに繋げていただければと考えております。

県の施策の中では、関係部局に共有してそれぞれ活用していただく。また市町村の皆さ

んにも活用いただき、民間企業、各種団体の方々にもご活用いただきといった視点でございます。アクションプランの見直しについては、モニタリングを踏まえて一定期間経て見直し作業に入っていきたいと考えております。

最後に 7 ページでございますけれど、北村委員の方からモニタリングの状況がよくわかった。県外・海外との繋がりを持ち、輪を広げたほうがいいのではないかとということで、取組の参考にさせていただきたいということでございます。

短時間でご意見を取りまとめましたので、事務局の文章も拙いところがあり大変申し訳ございませんけれども、一旦こういう整理をさせていただいたところでございます。これを踏まえて、またご意見いただければと思います。

最後に、資料 4 をご覧いただければと思います。SDGs に関する取組みというところで、全体像を整理しています。1 ページ目の上のほうですが、取組の概要ということで、基本的な建付けでやったことを整理しています。これは今年度の活動報告ということでご覧いただければと思います。いろいろと取組をさせていただきましたけれど、主なものとして、2 ページ目に新しい取組を入れさせていただきました。

まず、沖縄 SDGs 認証制度が立ち上がりました。1 月に 11 団体認証させていただきました。非常に一懸命やっている企業ですし、こういった方々と踏み込んだ取組ができないかということで、一度交流会やらせていただいたのですが、横のつながりを作っていこうということで整理しております。あと、右側のプラットフォームのプロジェクトチームというものを議論して、募集を開始させていただきました。いくつか提案もございまして、整理、精査をして、年度内にはいくつかチームが立ち上がりそうなところです。自主的にこういうことをやりたい、横のつながりを作りたいというご提案で、必要に応じて我々の方で関係者を募って、県が立ち上げるということが、おかげさまで始まったというところです。来年度もこういった取組を活発に進めていければと思います。

3 ページ目をご覧いただきますと、いろんな方々に SDGs に関心を持っていただくことが大事でございまして、普及啓発も実施しております。3 ページの左側に、昨年度、県民参加型イベント「みんなで SDGs！」という取組をさせていただきました。特に、沖縄まるごとゴミ拾いというのは、かなり活発に展開させていただきました。県内でクリーンアップを実施している 41 団体が一同に集まって、一定期間、各地でクリーンアップ活動をする。これは国連総会のタイミングで、色々なイベントがありましたが、そこと連動した形で進めさせていただきました。1,000 人を超える方々にご参加いただき、非常に好評でした。

他にも環境学習と自然環境再生だったり、琉球大学の学生さんが学園祭の中で取組をしていただいたりといったことがございました。プラットフォーム内でイベントを募集して、そこが県と連携して普及啓発を行うというアプローチでございます。こういった形で来年度も県民参加型イベントはアプローチできないかと考えているところです。

また JICA 沖縄とは SDGs フォトコンテスト、来年で 4 回目になりますけれど、活発に進めさせていただいており、引き続き連携させていただければと存じます。

また SDGs Quest みらい甲子園は玉城座長が実行委員を務めておられます。RBC と共催で進められている高校生を対象にしたアイデアコンテストです。毎年活発になってきて、こういったところとも引き続き連携させていただければと考えております。他にも民間主導の様々な取組がありまして、後援も含めて連携を図り、なるべく県民の皆様に SDGs の認識、認知度が広まるように引き続き取組を進めていきたいと思っております。

令和 6 年度の取組についても、今のような話を来年度もしっかりと取り組んでいきたいということが一つと、もう一つはこういった取組に加えて、5 ページ目に SDGs 全国フォーラムというものがございます。こちらは前回の会議でも少し触れさせていただきました。

今年の 12 月に開催する方向で準備をしております。基本的に未来都市に決定した都道府県が自主的に持ち回りで開催しているもので、一番盛大だったのが初回の神奈川県主催の開催でした。右側上の写真が、神奈川県が開催した際の写真でございます。

例年の内容からすると、セッションを 3 つほど、パネルディスカッション形式のシンポジウムを行うというイメージを基本軸として準備しております。当然、こういったイベントと絡めて関連イベントも展開できればと考えております。配布資料にはないのですが、大まかに概要をまとめましたので、スライドをご覧くださいながら、今の状況を説明させていただきます。全国フォーラムの企画のたたき台でございます。目的としては、SDGs の推進で地域課題の解決と地方創生の実現を目指す。それから、国内外の SDGs の動向を自治体の政策にどう取り込むかの議論、先行事例の共有、官民連携等のパートナーシップの促進、次世代からのメッセージを全国へ発信する機会にする。これは過去のフォーラムの開催に共通のコンセプトで、毎回いくつかの自治体がこのように開催してきており、我々も同様な視点で取り組んでいきたいと考えております。

12 月に開催予定で、300 人ぐらいの規模、必要があればサテライト会場を設けることも検討しており、ハイブリッド配信を組み合わせる形で考えております。

フォーラムの概要等については、(他県の例では)内閣府、外務省、国連広報センター等にもご参加いただいておりますので、これから調整をして参ります。

1 つ目のセッションですが、こちらはちょうど SDGs の折り返し地点ということで、前回の会議で、蟹江委員からもお話しをさせていただきましたが、フォーラムでも、国内外の情報を共有していただいて、これからどうしていくべきかをテーマとしたいと考えております。

蟹江委員には基調講演にご登壇いただけないか、ご相談させていただいているところでございます。叶いましたら基調講演で蟹江委員にお話しいただいた上で、他にも数名ご登壇いただいてパネルディスカッションを企画していこうと考えております。国連広報センターの方や、国連地域開発センターの方も関心を持ってくださっていますので、そういった方々、また沖縄県内の方のご参加も検討しております。

もう一つが庁内の議論の中で、自然環境の保全と持続可能な観光の推進とテーマでセッションを作ってほしいという意見がございましたので、これを軸に整理しています。サス

テナブルツーリズムという観光の視点での話と自然保護の話の 2 つを入れていこうかと考えております。奈良にあります国連世界観光機構の方や JNTO（日本政府観光局）の方、自然環境保全ですと環境省の方に相談する必要があるかと思っております。

パネルディスカッションの中で、県外の自治体のアプローチを発表するようなことも考えておまして、パネリストとしては基調講演の方や自治体の方、地元の方のご登壇などを考えています。

3 つ目ですが、毎回、次世代からのメッセージというアプローチを入れています。ここは別の日程で、ワークショップなどもしっかりやって整理した上で、発表という形にしたほうがいいのではないかと考えています。教育庁の方も積極的に SDGs を展開しているので、例えば SDGs 指定校みたいなところを中心に御協力いただいて、県内高校生 30 名ぐらいに集まって議論していただいて、何かメッセージをまとめてもらって発信していただく。

そういったアプローチをたたき台としていただいております。最後に閉会セレモニーで時期開催地の知事からご挨拶をいただいて、大阪府が次期開催地候補として調整しているところで、前向きにご検討いただいております。資料の概要と全国フォーラムの補足説明は以上です。

（玉城座長）

ありがとうございます。モニタリング報告書を取りまとめていただいて、事務局の皆様、本当にお疲れさまでした。ここからの議論ですが、11 時から宮古島市エコアイランド推進課の友利翔太様にお話いただきます。それまで 15 分～20 分ほど時間がありますので、今のモニタリング報告書、配布資料、そして次年度の SDGs フォーラムにつきまして、意見交換ができればと思います。蟹江委員、お願いします。

（蟹江委員）

色々ありますが、一つは、(事前の) 意見の中でも出ていますが、表が前進割合と進捗状況と 2 つあります。前進割合が 17 のゴール毎に示されていますけれども、パッと見て進捗で 0 という数字があると、あれ？とってしまう人もいないかと思いません。全体の進捗状況を書いて、前進割合はこのくらいでしたという書き方をしたほうが解りやすいのではないかと思います。

もう一つは、他の委員も仰っていましたが、確かにアクションプランの優先課題のほうが沖縄の現状を示しているかなと思ひまして、中身を見てみると、ゴールごとの指標に落とし込めるところもあるけれども、前半の 17 のゴール指標と後半の優先課題の指標と、必ずしも一致していないので、優先課題の指標を 17 ゴール別に分けたらどうなのかなと思ひました。その方が、もしかしたら沖縄の状況で正確な指標を示しながら、現在の取組状況がわかるのではないかと思います。

仮に時間の関係で今年はそれが難しいということであれば、そのところを前半と後半

を含めた全体的な解釈というか、数値を見てみるとこうなるけれども、全体としてみるとこうなるという。

例えば優先課題についてはわかるのですが、格差とかを言っていて、17のゴールもそうですけれど、その辺を合わせてみると、こういうことが言えますという風に、進捗評価レポートみたいなものを出せるような。それはアドバイザリーボードの役割かもしれないという気もしますけれども、17のゴールに寄せるのか、アクションプランの12に合わせるのか、やり方はあると思いますけれど、もう少し解釈で2つ合わせて総合的に見るとどうなのかということを書き込むことが大事なのかなと思いました。

これは次年度の課題になるかとは思いますが、書いていることは真面目に書いておられますが、もう少し定性的な話が見えるところがあると思います。数値ではこうだけれど、現実のところはこうという。そういうことも含めて、いろんな人が読む報告書なので、わかりやすく伝えるということが必要かなと思います。

その辺はサマリーみたいな感じでも入れてもいいのかなという風に思いました。この報告書自体にはサマリーがないので、報告書自体にも数ページのサマリーをわかりやすく書いて、そのところをいろんな人が読むと分かるというのがあればよいのではないかと思いました。

(玉城座長)

ありがとうございます。和田委員、お願いします。

(和田委員)

蟹江先生のとおり、全体のサマリー、この報告書からこういったインプリケーションがあるといったところが考えられると思いますけれど、それに加えて将来的に、このモニタリングについてステークホルダーがどう考えているのか。例えば、(SDGsの取組を)やっている事業者がどう考えているのか、そういった所まで踏み込めると深みが出るものになるかなと思いましたので、追加で意見させていただきます。

(平本委員)

私も事前にどうコメントしたらよいかと迷って対話形式でやったほうが良いのかなというふうに思いまして、事前コメントを控えておりました。今のご説明をお伺いして、お二人のご意見も踏まえながら、コメントいたします。ビジュアル化とかサマリーは確かに大事ですが、今の段階では整理がすごく難しいなと、聞きながら思いました。

なぜかという、大きく2種類のアウトプットがあるからです。一つはビジュアル化とかサマリーといった、わかりやすく、見やすくしたいという工夫をしている部分、もう一つは、データとして網羅性を持たせようとしている部分です。両方が混ざってしまっています。

こうした状況は、実は企業が、2003年にCSR報告書とか環境報告書を出し始め、その後本格化していく中で、多くの企業が持っていた課題と似ています。企業においては、社会・経済・環境という3つの側面からデータを取っていくとボリュームもどんどん増えてきますし、どこまでやったらいいのだろうみたいな話になり、結局、その報告書が100ページを超え、真面目にやればやるほど分厚くなり、結果的に誰も読まないし、使わないといった状況に陥りました。

産業界ではこれでは意味がないという話になり、レポートとファクトブックを分けましょうという動きになりました。ファクトブックの方は、丁寧にデータで進捗を示していく。でも、そこにメッセージ性はなくて、あくまでもデータ集として使う。一方でサマリーとかビジュアライズになると、やっぱり方向性が明確じゃないと、どういう風にまとめていけばいいのかっていうのも分からなくなってしまう。そのため、ビジュアル化、サマリー化したアウトプットを、作成後にどう使っていくのかということも想定した上でまとめ上げていくということが必要ということになりました。

こうした動きが企業の中だと、だいたい2015年ぐらいまでに主流の考え方になっていき、それをベースにSDGsが浸透していく中で統合報告書にしていこうという話になっていきました。結果として、うまく財務レポートと、サステナビリティレポートが融合していったという流れとしてあります。

昨今は、さらにファクトブックをデータベース化しようという動きがあり、データベースで検索すると必要なデータが提示されるという形式になってきています。データベース化をすると、昨今は自動化の中でデータを自動更新することもできるようになってきていることもあり、データベースを作る動きが広まってきている状況かと思います。

ですので、そうした今後の流れを想定したうえで、今の段階でいうと、割り切りはある程度の方がいいと思います。最初の段階としては、ファクトブックとしてこういったデータを抑えるべきなのかを考え、メッセージ性は持たせず、あくまでもこの数値は何年かに一回更新していきます、この数値は毎日更新して行きますというような形で整えていく。

一方で方向性を求めて行くということは、まだまだ議論の余地があると思うので、蟹江委員がお話しされていたように、例えばアドバイザリーボードで評価レポートを作成するというので、私たちの方である程度、方向性を3つか4つ程度示させていただいて、その上でまた皆さんと議論しながら方向性を固めていって、最終的な落としどころを確定して行くほうがいいのかなと思います。

この辺は私たちも、皆で汗をかいて、評価に関しても、しっかりと議論をした上で作業しながら、出させてもらえるといいのかなと思っています。

なお、先ほどのデータベースのところは、自治体関連の動きとしても、デジタル田園都市国家構想で、進んでいるところがあるため、参考としてまた別の機会に私からご紹介しようかなと思います。

(玉城座長)

島袋委員、お願いします。

(島袋委員)

いろいろ書かせていただいたのですが、先ほど和田委員からも取り組む人が見てわかるようなというご意見がありました。特に私が気になっているのは、県、あるいは市町村の行政の様々な事業の担当者が SDGs 推進のために、この事業をやっているということが分かるような、そして自分のやっている仕事を評価できるような、そういったシステムを作る必要があると思います。

せっかくここまで作っているのであれば、県の基本計画の方は相当 SDGs を入れていて、大変感動しましたけれども、実施計画、指標と数値目標が書かれた実施計画の方にまるで SDGs が入っていないのですね。

実施計画の方に SDGs の考え方とか目標とかを盛り込まないと、実施計画に基づいて事業を実施していくのが基本なので、実施計画は今回が3年計画になりましたので、次の実施計画に SDGs の様々な指標や目標値を取り込むような形で作ってほしいなということです。今回は無理なので、次回の実施計画に。

企画調整課に SDGs 推進室が置かれていることは非常に重要で、企画調整課が実施計画をまとめているので、そこに入れていくような方向で検討していただければ、実際に沖縄県の PDCA、それが沖縄県の SDGs の目標に合わせた PDCA になって回っていきますので、そこが非常に重要なと思います。

それから、沖縄県では実施計画を行政だけで審議して決めています。他の自治体では指標の設定と目標値の設定は、政治的な価値を含むので、普通は公開の審議の場で県民を募って決定するか、あるいは議会で決定するところが多いのです。けれども、沖縄県の場合はどちらもしていないということで、目標値の設定が行政のツボというところが見えてしまう。

そういうことではないと、おっしゃるかもしれませんが、目標値設定は難しく、例えば SDGs に関しては、全県的な共通の指標を使うと、全県的な位置づけが分かるので、目標設定を深く考えなくても、全国並という方向設定をすることができるのです。だから、蟹江先生の意見にもありましたが、17 のゴールのところと、それから県のアクションプランと連携させて、アクションプランの方も全国的な中でどういう位置づけになるのか、わかるようにしたほうが良いのではないかとというのが私の意見です。

(佐野委員)

今まで皆さんがおっしゃっていたのは、その通りだと思いますが、今回、これだけデータをまとめられたのはすごいことだと思います。なので、これはこれとしてモニタリングの結果として報告をすべきですし、それに対して、本来であれば指標を決められた専門部

会の皆さんが、この結果を見てどう思うかということを議論されて、それを見てさらにこのアドバイザリーボードのメンバー、それこそ県外や海外などの潮流も知っているメンバーが揃っているの、その観点で評価をする。専門部会の議論の後ではなく、同時並行でもいいのですが、そのような建付けが整備されれば、すごく有用ではないかと思えます。

(玉城委員)

ありがとうございます。それでは次、お願いします。

(淵辺委員)

データの取りまとめ、ありがとうございます。島袋委員の話と連携するのですが、SDGsの取組の担い手は全県民ですよ。そうすると、まとめたものを見ました時に、企業、団体だけが中心になって書かれているわけです。そろそろ、令和6年度の取組をもっと幅広く記載するという必要かなと思っております。前回、前々回だったでしょうか、地方自治体の取組に大きな違いがあり、如実に温度差があることを実感したと思えますけれど、そうであれば、次年度の取組としては、県だけではなく企業、団体だけではなく、地方自治体まで巻き込んだ幅広いところへ対象を巻き込んでしかるべきではないかと思っております。

(玉城座長)

ありがとうございます。この後、一度ぐらい意見交換する時間があると思いますが、皆様、本当に議論ありがとうございます。SDGs推進室の皆様、今の段階で何かおっしゃりたいことがあれば、お願いします。

(事務局)

ご意見をありがとうございます。ただ、モニタリング報告書については時間的な要素があって、今年度どこまで反映できるか、持ち帰って検討させていただきます。来年度の作成の中で参考にさせていただきながら、作業をさせていただきたいと思っております。

あと、令和6年度の取組についてはおっしゃる通りでございます。県民、自治体、広く巻き込める形で取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。ぜひご支援のほど、よろしく願いいたします。

(玉城座長)

ここからは、宮古島市の方に入りたいと思っております。エコアイランド推進課とって、私は今年6回ぐらい宮古島を訪れまして、何度か、宮古島市のSDGsの推進を見てきました。皆様が泊まっているホテルも恐らくSDGsに何か頑張っていて取り組んでいるみたいなどを感じられる部分があったのではないかと思います。

10年後、100年後、1,000年後を考えた宮古島市の市民連携、産業界、学校を巻き込んで、非常に面白い取組をされていて、映像もたくさん出ていますので、よろしければ宮古島のエコアイランド推進課というのを調べていただければと存じます。今日は年度末で、恐らくとても大変な中いらっしゃったろうなと思いますが、プレゼンテーションをお願いしたいと思います。友利主任、よろしくお願いいたします。

(友利主任)

よろしくお願いいたします。丁寧なご紹介を頂き、ありがとうございます。エコアイランド推進課から来ました友利といいます。本日は「せんねんプラットフォーム」の紹介、エコアイランドと銘打ってSDGsに近い取組をしておりますのでご紹介させていただきます。

エコアイランドについて、そもそもどういう取組をしているか、エコ宣言を行ったり、せんねん続く未来へということでプラットフォームを創設する等、みんなが一つになれるようなものを作ったりしています。

エコアイランドにおいて大切な柱が3つありまして、それが環境保全と資源循環、産業振興と、いわゆるSDGsの環境・経済・社会の視点から持続可能性を考える必要があるということで、エコアイランドとして考えてまいりました。

スライドに表示していますが、環境・経済・社会の達成に向けた様々な要因を整理したものになります。こういうたくさん事故があるということは、宮古島で観光客が急増しオーバーツーリズムとか、開発によって家賃が高騰する等といった社会課題が生まれた状況があり、2019年に環境省地域循環共生圏構築事業というものを活用して、市民の取組についてワークショップがございました。その中で作ったのがこちらのマンダラというものになります。宮古島市民の声を拾って、そこからありたい宮古の姿、宮古にある資源ですとか、こうありたい宮古に向かって必要なプロジェクトというのには、このようなことがあるのではないかと、というのを一つのマップのように書いています。

そういった中で、このマンダラに描いたプロジェクトを実現するにはどうしたらいいのだろうかということで、それこそワークショップを開いた時のように、みんなが集まって話をして、何が宮古に必要なかを考えて、必要な施策というのを一緒に作っていく必要があるのではないかとということで、官民との相互協力は不可欠だ、市民と民間が一緒になって共に新たな組織を作ろうということで始まったのが、プラットフォームの構築事業となっています。今、私たちは「千年先の、未来へ」という標語に合わせて、せんねんプラットフォームという名前で取組を進めているところです。

せんねんプラットフォームの機能と役割のところ、中核的価値として、せんねんプロジェクト（市民・事業者発意による宮古の持続可能性に寄与する事業）の創出、拡大、横展開をせんねんプラットフォームとして進めております。このせんねんプロジェクトの実現に向けては、プロジェクトの発掘から育成、情報発信、拡大支援、総合的な支援をしていきたいということで、これまでも様々な取組をしているのですが、それは後ほどご紹介

したいと思います。

プロジェクトの発掘とイメージの構築というところで、プロジェクトを芽と種に分けて、例えば芽とは、いわゆるすでに動き出しているアイデアと人がいる状態で、種は、アイデアはあるがまだ実行していないという状態と捉えて、それを苗として育成していく。

その苗をプロジェクトのスタートアップ実行支援ということで、実行する人を呼びかけるとか、実行している人に協力者を募集するといった機会を作っていきたいと思っています。その中には、初期活動支援という形で参画できるように、資金の方でも支援できればと思っています。そこからプロジェクトを拡大支援というところで、さらに拡大する方には、一緒になってクラファンを協力して実施していく。クラファンを選んだ理由としては、広く共感を得るためには、ロジックですとか、ちゃんとした計画、目標、成果も整理する必要がありますので、そういうところを整理して実施できるようにする狙いがあります。

拡大を目指さない場合についても、一緒に作ってきたプロジェクトを、引き続き費用を絶やさないような形でいきたいと考え、ふるさと納税のサイトとリンクさせるとかといったところで繋げていきたいと考えております。

次に最終的に実装していく機能のイメージというところで、せんねんプラットフォームは民間と行政が一緒になって作っていく組織だと思っています。今年秋頃をゴールとして、法人化を目指していきたいと思っています。この作っていくプラットフォームの中でマストの中核的価値のプロジェクト創出だけではなく、市全体への横展開、また、ローカルシンクタンク機能ということで、いわゆる情報発信を行うのですが、自分たちのプロジェクトや行動がどのように市民生活に対して影響を与えているだろうか、社会的インパクトがあるのかということも図れる、そういった機能も持っていきたい。今、それが全部あるわけではないのですが、そういった組織になれるようにということで、書かせてもらっています。

ローカルシンクタンク機能で、特に掲げていきたいのが、公的サービスの拡張とシビックプライドと地域裨益の向上、連携による価値創出、費用対効果向上というところで、プラットフォームの法人化にあたっては、いわゆる行政の資金、税金を活用するということで、公的にもこの事業を実施する必要があるといったところも説明ができるようにというところで、考えております。

最後にプラットフォームがどのような取組をやってきたかというところを、ご紹介したいと思います。今年実施したものとして、せんねんカフェといいまして、宮古島の中に城辺という農村地域があるのですが、農村の風景を見ながら、美味しいコーヒーを飲みつつ、真面目に宮古の課題について話をしようという取組をしました。あと地域散策ツアーということで、宮古の北部に狩俣という地域がありまして、自治会長さんが地域を回りながら歴史や文化、地域にある植物の話をして、コミュニティセンターに戻ってきて、宮古の残したいものに関して話し合いました。次は、せんねんラジオというローカルラジオで、い

わゆる SDGs の観点で意識高い系がやっていることと言われ始めたので、そうじゃない、もっとざっくばらんにみんなで気軽に話している様を見せたくて取り組みました。

次のせんねん祭につながるのですが、先程の中核的価値でせんねんプロジェクトを作っ
ていきたいという話をさせてもらったのですが、このせんねん祭がまさにせんねんプロジ
ェクトを市民に向けて、島内に向けて発表ができる機会として行ってきたものです。これ
まで 3 回行って、第 1 回目に佐々木有希さんにゴミゼロネットワークを作るというこ
とで発表してもらって、すでに延べ 500 人近くの方に参加してもらって、ロードクリーン
を続けている方です。また、松原正明さんは、ジビエを通して、食育の機会を作りたいと
いう方なのですが、宮古島の外来種の中で孔雀が多くいて、捨てられてしまうのはもった
いないし、島の自然を伝えながらそういったクジャクをジビエにして食育に活かそうとい
う方です。

昨年度の発表者では、根間玄隆さんという方がこの地域の中で家だけ、学校だけではなく、
地域・宮古島全体でみんなで学生を育てようということをやってきたいということ
で、実際のこの方は通信制の「島の高等学院」を立ち上げられて、自分のフィールドの中
に様々な大人や子供たちを入れて勉強会というか、例えば最近チャット GPT の勉強会を
開いたり、あとは学生が、アルバイトではないのですが、インターンという形で自分がや
ってみたい仕事をやってみるとかといった活動をされています。

レオクラブ宮古島は、子どもたちが主体の社会奉仕活動団体になるのですけれど、一番
目指したいところは、プラスチックゴミをなくしたいというところなんです。きっかけとして
は、普段自分たちがビーチクリーンや、公園でゴミ拾いをされている中でプラスチック
のことを勉強したら問題が多くあることに気づきまして、それを減らすにはどうしたら
いいかということで、水筒を持って行くと給水ができる場所を示してくれる「mymizu」と
いうアプリがありまして、その「mymizu」登録店を増やそうということで発表してもらい
ました。昨年度活動を始めた時は 6 店舗でしたが、最終的に 50 店舗ぐらまで増やすこと
ができました。夏休みに子ども達が自転車で営業して回ったりして、活動していました

今年は、原さんと言いまして、宮古島でご自身のブランド立ち上げて活動されている方
です。ミス宮古のコスチュームのデザインにも関わっている方ですが、この方はファッ
ションを通じて、宮古島を再構築するということで、宮古上布は大切な伝統織物ですが、な
かなか浸透していない。一方、宮古ならではのかりゆしウェアって案外ないよねという話
がある。いわゆる宮古ならではのファッションを通じて、宮古について考える機会を作り
たいということで取組をされています。次に奥平直人さんですが、この方は、宮古の下地
地域の方で、小さな頃からおじいちゃん、おばあちゃんに育てられて、ご自身の経験から
医療関係とか介護関係に従事されてきて、今はおばあちゃんと一緒に、民宿をされている
のですけれど、コロナ禍を経ておじい、おばあコミュニケーションが減っていることを
気にしていて、このコミュニケーションの場をもう一度作りたい。ただ集まるのではなく、
例えば、おばあ達は集まって、ゆんたくして楽しいけれど、おじい達は役割がないとこな

い。それなら、おじいが来られる様に役割を作ろう。ドライバーになってもらうとか、みんなに野菜を持ってきてもらおうとか、みんなでお店のようなものを作って生き生きとした交流の場を作りたいということで取り組まれています。

せんねん祭が、中核的価値の部分でせんねんプラットフォームが目指しているものに近いのですけれど、先日も発表の前と後で伴走させていただきまして、せんねん祭に向けて自分の小さな種だったアイデアを、このプラットフォームのメンバーと一緒に発表ができる、事業プランとして一緒に作る、それを皆さんに向けて広く発信した中で、賛同の声という形で多くの方に「いいね」をもらったり、もしくは協力してくれる方いませんか、と呼びかけながらやるのですが、今年も、原さんと奥平さんに対してはそれぞれ 250 ぐらい賛同の声が集まって。そういう声を頂いた後に、令和6年度は、先ほどご紹介したアイデアを実行に向けて動いていくと。せんねん祭の前と後も、伴走しながら構築しているというところです。このような形で実際のせんねんプロジェクトを動かしているという状況です。

(玉城座長)

友利さん、ありがとうございます。素敵なプレゼンテーションでした。せんねん祭の動画が（ホームページで）見ることができますよね。いろんな方がいろんな想いを発信されていて、過去のプロジェクトもわかるようになっていっているので、ぜひご覧になっていただければと思います。それでは、意見交換をしてみたいです。平本委員、お願いします。

(平本委員)

発表ありがとうございます。非常に興味深い内容と思っております、仕組みをしっかりと整理された上で取組に注力されて、バランスが取れていると思いました。

そういう意味で、2点ほど、質問させていただきたいと思います。一つ目についてですが、恐らくこれからだろうと思いますけれども、県の広域自治体と市町村の基礎自治体では役割が違うについてです。今の話については基礎自治体として、ちゃんと市民一人ひとりの顔が見えるような形で運動力を上げていくことをすごく重視していて、さらにそれが仕組みとしてしっかりと自走したり、拡大したりしている支えをきちんと作っていらっしゃることは、素晴らしいと思いました。一方でやっぱり見えない所としては、沖縄県全体で見た時に、この宮古島での取組というのが、すごくいいものなのかどうか、ということです。例えば、他の地域に横展開すべきことなのか、そうじゃないのかが、見えてこないというところがあります。そこは県のほうでモニタリング報告書を示していただいたように、やっぱりかなり幅広いデータとすり合わせをしながら、せっかく宮古島はここまでやっているのだから、ほかの地域のモデルになってもらおうとか、そういうような話をしていくべきなのかなと思っています。したがって、質問としては、県と宮古島として対話の機会とかいったものはあるのか、これから作っていくのか。そういったところについて、何か考

えがあればお伺いしたいのが一つです。

もう一点は、こちらの資料の中で 5 ページにビジョンと書かれているところについてです。非常に重要なポイントとして、市民がルール作りや政策に主体的に関わるということが書かれております。かなり本質的な話であるため、ここまでどうやってたどり着くのかといったことがやっぱり大事だと思います。個別ですごく頑張っている方々にフォーカスしていくというのは、最初の一步としてやりやすいのですけれども、政策利益に関わっていくみたいな話になると、色々な障害があったりするので、そこまで本気でされようと思われているのであれば、何らかの方法というのがやっぱり必要だなと思っております。そこについて何かすでに取り組みされていること、計画されていることがあるのかなというところでお伺いできればと思います。お願いいたします。

(玉城座長)

今の 2 点は、全部宮古島市さんの方からの回答でよろしいですか。

(友利主任)

ありがとうございます。あの県との連携についてですが、縦割りの話で申し訳ないのですが、SDGs の窓口は当課ではなくて企画調整課でして、今回お声かけいただいてお話しせてもらっているのですが、当課も SDGs というところも含めて取組を進めていますので、(県とも) 対話の機会があれば嬉しいなと思っています。

2 点目について、ローカルシンクタンク機能というところを実装して行きたいと考えています。自分たちの取組がどういうインパクトを起こしているか、そもそもの取組についてアニュアルレポートを作っていく必要があるという風に考えています。後ろに控えてもらっているエコアイランド推進課に所属している高原さんが、東京のコンサル会社から企業版ふるさと納税と一緒に出向で来ていただいています。そういったコンサルの力を借りているのですけれど、そういう政策提言ができるような機能を持っていきたいと考えています。すぐにできるとは思っていないのですけれど、そういったローカルシンクタンク機能を持つことで、こういったことができるのではないかと考えています。

(平本委員)

シンクタンク機能を持ったあとに、議会に対してアプローチして議員さんから提言してもらおう、といったこともありうるのでしょうか。

(友利主任)

法人化にあたって、行政からも人を派遣するとか行政の資金を投じて作っていくことを考えていて、行政主導で作っていくようなプラットフォームになっているので、その中で出てきた提言等を見過ごせない状態ではいきたいなと思っています。

(平本委員)

最初は市の総合計画の中にどう意見を位置付けていくかというような所から始めて、徐々に議会で、例えば条例制定のようなところにもアプローチするような感じですかね。

(玉城座長)

県の方からコメントはありますか。

(事務局)

連携については、今 41 市町村ありますので、41 市町村全部で担当を決めていただいて、年に何回か、離島の市町村もいるので、ウェブ会議で情報交換とか意見交換をしています。

過去にもエコ課に事例発表していただいて、他市町村に取組を聞いていただいたりということもあります。例えば未来都市の恩納村の取組や石垣市のプラットフォームを作ろうとしているといったお話をしていただく等、事例を共有するということで、我々の方で声を掛けてさせていただいている経緯があります。

そこから横展開するかということまでは至っていないところですが、情報共有は引き続きやっていきたいと思っています。企画調整課が窓口ということで、まずはそこと相談しながら、エコ課の皆さんにもご協力いただき、引き続き連携していきたいと思っています。

(玉城座長)

ありがとうございます。それでは淵辺委員、お願いします。

(淵辺委員)

大変素晴らしい取組ですが、運営資金、つまり財源がないとプロジェクトチームを動かせないと思うのですが、最初は市の税金とありますが、いくらぐらいを想定して動かしているのか。それとここによりますと、5年後にはその半分は市の税金、半分は外部調達と書いていますが、外部調達など、エコ関係の補助とか色々あると思いますけれど、どういうふうにして資金調達をしていく予定なのか、教えていただければと思います。

(友利主任)

資金調達については、今のところふるさと納税の活用を考えています。宮古島市には、今年度 12 億円くらい寄付されていますが、その中でコースが分かれておりまして、例えば健康コースとか、スポーツアイランドコース、市長おまかせコースなどがあるのですが、エコアイランドコースが全体の中で 2 番目に多い寄付額を頂いています。

現状もふるさと納税を活用して、せんねんプラットフォームを運営しているので、法人化後もその活用を進めていきたいと思っています。5年後の話は、一旦普通納税から離れ

るところがあると思いますが、企業版ふるさと納税を組織が取ってきて事業に回すというパターンもありますし、他にも自分たちで稼げる何かしらの手立てをもった上で取り組んでいるというところもあって、今のところ想定の話でしかないのですけれど、いつまでも市が出し続けるという説明ができないので、自分たちでも資金獲得ができるような組織にしたいと思っていたので、一旦このように書かせていただきました。当面の運営資金は、2千万を想定しています。

(玉城座長)

蟹江委員、お願いします。

(蟹江委員)

すばらしい取組だと思いました。これは、もう少しちゃんと沖縄のSDGsの活動としてしっかり認識していくことが大事じゃないかと思います。一つのモデルになり得るのではないかなということと、地域循環共生圏が始まったということですが、環境省が地域循環共生圏(ローカルSDGs)の実現があるので、SDGsの取組を最初は税金を使ってということかもしれないですけども、自走してやっていこうという取組で、こういうものをもっと出していく、いろんなところに出ていくというのもいいと思います。ぜひ県としても支援していただきたいと思いました。

お金に関しては、会費などを取って、まあ企業とかも含めて会員制にして会費を取って、そういった方にも還元するプロジェクトがいっぱい出てくると思うので、将来的に自立していくことを目指しながらやっていくといいのではないかと思います。宮古島に限らず、いろんなところから、協力してくれる企業もあるのではないかなと思ったので、やられたらいいのではないかと思いました。

一つの動機、インセンティブになりそうなのは、やっぱり横展開というか、横のつながりを広げていくことだと思います。ここのコンセプトで言っていることは、後で今年度の説明をする機会があると思いますが、ハワイを中心にLocal Island SDGs Networkというのがあるんですね。そこでやろうとしていることと、まさにリンクしている。まずは“島”同士というところで仲間を広げていって、そういうところとつながりがあるということを手く示していくのもいいのではないかと思いました。

そのネットワークで提唱しているのは、ハワイのローカルな言葉で“将来に繋げていく”という言葉で、多分せんねんプラットフォームというのもそういう発想だと思います。もともとの島にある発想でそれを補うということだから、そこに立ち返りながら、というところで、共通点が非常に多いなと思いました。ぜひそういう仲間を増やしながらか、仲間と繋がるような展開をしていくと、すごくいいのではないか、モデルになるかなと思いました。本当に素晴らしいので、来年の全国フォーラムの機会でもいろいろ発信したり、協働したりする機会を見つけるといいのではないかと思います。

(玉城座長)

ありがとうございました。島袋委員、お願いします。

(島袋委員)

18年か19年のSDGsに関する万国津梁会議で、私がつくった沖縄自治研究会での主催だったと思いますが、エコアイランド宮古島の担当の方や恩納村のSDGs未来都市の担当者の方、自治体の環境系や企画系の方を150名ほど集めてシンポジウム、フォーラムをやりました。その時に取組みを紹介したのが与那原町と南風原町でした。特に取組みのような雰囲気を持っていて、その中に入れようとしたのですが、やっぱり資金繰りがなかなか持続できなくて、コロナの後、SDGsの自治体の取組を全県的に横に広げていくということがなくなってしまったのですが、できれば、例えば町村会とか市長会とか、そういったところを巻き込んで、そこにSDGs推進担当者を誰か貼り付けてくださいというのはどうかと。

県が主導すると、縦になってしまうので、町村会や市長会といったところと連携しながら、全県的な市町村の連合体組織もありますので、そういうところに企画を持ち込んで連帯していったらいいのではないかと思います。町村会とか市長会は政策提言もするので、そういうところで巻き込みながら横串を作っていくのではないかと思います。

不思議に思いましたのは、全庁的な取組ができる課で、指標を設定して目標値を設定して事業を出してもらうということは、少し内部の管理的な機能を持つわけです。それは企画調整課しかない、環境課とかに置くと、それは環境の仕事ですよと言って、他のところは見向きもしない。それがちょっと不思議で宮古島市の場合は、企画調整課とは関係なくエコアイランド推進課という形でやっている。専任者の方だと思うが、何度も何度も全庁的に話し合いを進めて、それで作っていったという話を聞いた覚えがあります。それは相当苦労されたのではないかと思います。今後もこれは全庁的な取組にならないと成功しないと思うのですが、企画調整課ではなくエコアイランド推進課というところで取組を進めるとしたら、全庁的な合意形成をどうやって達成しているのでしょうか。今、数値目標とかといったものが見えてこないの、他の課と話し合いを進めたりして、やってもらうしかないわけですね。それがどういう体制で作られているのか教えていただきたいと思います。

(友利主任)

推進体制としては、エコアイランド推進本部というものがあまして、本部長が市長でその下に副市長、教育長、各部局長等で構成されています。毎年、推進計画を策定してあまして、その中で、関係各課にヒアリングを行っています。それで、企画調整課ではSDGsをやっていますけれども、エコアイランドというような切り口であれば、全庁横断的な取

組ができるという状況があると思います。

(玉城座長)

和田委員、お願いします。

(和田委員)

どうもありがとうございます。楽しく聞かせていただきました。感想というか意見なのですけれども、今伺っていて思ったのが、千年はすごく長いスパンだなと思ひまして。

SDGsは2015年に2030年を目標として、15年はわかりやすいからちょうどいいとなった時に、千年が宮古島の中で共通化されているというのは、外部の人から見るとすごく効果的で、長期間で考えられているところを感じられて、すごくいいなと思ひました。

最初に環境保全と資源循環と産業振興を柱になさっているとおっしゃっていて、出てきたプロジェクトは、結構、社会の問題やコミュニティの話が多かったので、意外と島民の方は環境・経済・社会の中で、当面の社会面の課題を中心に考えられているのかと思ひたので、もしかしたらそういうところに寄ったほうがよいのかなと思ひました。

選考基準としていろんな方が応募されていて、(島民は)誰を支援するのかを選ばれると思うのですけれども、そうした時に、例えば若者や女性を支援できるような形になるとすごくいいなと思ひました。

先ほども少しお話ありましたが、これはSDGs会議なので、SDGsアクションプランとの関連が整理できているといいなと思ひました。もしかしたら、例えば連携による価値創出をローカルシンクタンクで図っていくときに、千年先につながるかどうかみたいなのが、今は図りきれないと思うので、SDGsを基準にSDGsのゴールでこの価値が出ましたとか、そういう使い方ができるのではないかと思ひました。以上です。

(玉城座長)

ありがとうございます。佐野委員、どうぞ。

(佐野委員)

ありがとうございました。すごく目が開かれる取組だと思ひました。反対に、先ほど縦割りの話もありましたが、ここまでやってきて、あるいはこれから目指そうとしているところで、課題である、乗り越えなければいけない壁だと感じているものがありましたら、教えてください。

(友利主任)

私を感じているところという形になりますけれども、今エコ推進本部のプロジェクトチームという形で、係長級以下の若手を含む、芽が出そうな方々に仲間になってくれないか

ということで意見交換をしております。その方達は、非常に熱意があるのですが、部署を超えてというところには、なかなか敷居が高いのかなというところは感じています。

先ほど、せんねんプロジェクトに対して仲間募集をするという話をしたのですが、そもそもせんねんプラットフォームにもたくさん仲間がほしい。例えば、島の中でこんなことやりたいという方を、支援できる方はなかなかいらっしゃらないというのが正直なところでは。例えば、その人がいないとできないというようなことではなく、組織として、その役割、機能を常に全うできるような人事体制が作れないかというのは、今のところ課題です。

(玉城座長)

ありがとうございます。私もエコアイランド推進課のほうを見させてもらっている時に、宮古島はサンゴ礁の島からできていて、水が非常に貴重で、山が足りないということで、水を大事に循環させていくということが、長く宮古島が持っている課題というところで、エコというのが中心課題という中で、宮古島からすると、最近でできたのが SDGs で、ずっと前からやっているものが恐らくエコアイランド宮古島の構想だったということかと思えます。

私たちが気をつけないといけないのは、そこに SDGs のロゴがついていないから異なるものではないと考えてはいけないだろうなと思えます。宮古島にとってはずっと続けてきたことはエコアクションですし、わたしたちがずっとやってきた沖縄らしい SDGs とは何ですかと言ったときに、私はこの宮古島を見たときに非常に素晴らしいなと思いましたが、ローカル指標とかいろんなものがありますけれど、外から見た私たちが見ても、なんて素敵なのかと思うほど、わかりやすく広報されておられます。一時間半のビデオをあっという間に見てしまって、もっと見たいと思ってしまったりか、宮古の地域通貨はいったいどこに行けば手に入るのだろうかとか。もちろん全てがうまくいかないかもしれませんが、本当に応援したい。そういう意味では、今精一杯、最先端で頑張っている宮古島のこの担当部署の取組を全県下に広げていくことは大切だと思います。

恐らく、ここからどう繋げていけるのかなとか、SDGs でこんなことができないかなというのを、私達から投げかけていくところを共有していただければ、何か連携できるのではないかなと、個人的は思っております。

これからも一緒につながって、連携できればと思っています。何かありますでしょうか。もし、こんなことを一緒にしたいですということがあれば、よろしければどうぞ。

(友利主任)

皆さんに広めてもらえれば、ありがたいと思います。たくさんコメント等を頂いたので、また今後繋がれば。庁内の連携にも課題がありますし、外側からの皆様のご支援をよろしく願います。

(玉城座長)

それでは、蟹江委員からお願いします。

(蟹江委員)

今年度の取組についてのところで、まず資料4の3ページのところで、県民参加イベントのことが書かれていて、こういう例は、割とやって終わり、というのが多いと思います。ゴミ拾いして集まって良かった、で終わりがちなのですけれど、そこがSDGsに対してどういうインパクトを持っているか、海洋プラスチック対策、気候変動対策、海の環境保全こともそうです。イベントはそういうことを啓発する機会にしていく必要があると思います。そういう取組を今年度、こういう機会を作るのであれば、ぜひやっていただきたいなと思いました。

それから、最初の議論をしている時に、平本委員からこのサマリーのようなものを出すというご意見がありました。私もそれはすごくいいことだと思いますが、これは必ずしも一緒に出す必要は必ずしもないと思います。むしろ少し遅れて、総括的なものを出すとか、もう一つは、VLR (Voluntary Local Review) というのをぜひ沖縄県からもやっていくと、これだけのものを出されるので、素晴らしい内容をまとめていると思いますし、色々な事例をまとめておられるのでVLRのような評価を入れるというのも一つのアイデアだと思います。

来年度やるか、その次か、来年度はちょっと時間が少ないかもしれないですね。その次の年は日本としても、Voluntary National Reviews をする予定がありますので、そこに合わせて出すというのも一つのアイデアなのかなと思いました。

それから、認証制度についてですけど、私のラボで、地域の認証制度はなかなかやりにくいということがあって、地域ごとに濃度が分かれてしまうので、うちで全国一律の基準のようなものを作って、認証制度を動き出すことにしたのです。そういったところと連携して行くと、少しわかりやすくなるかなという感じがするので、その話が少し具体的にできるかなと思います。

最後に全国フォーラムに関して、あの先ほど少し触れたのですが、ハワイが中心となって、Local Island SDGs Network というのを作っていて、グアム、サイパン、ハワイ等太平洋の島々などが入ってきていますので、是非そういったところと連携して、ネットワークの方々を招待するというのをこれを機にやってもいいのではないかと思います。そうすると、日本とそういったグローバルなネットワークと繋がることのできるの、やってみてはどうかと思います。ハワイのネットワークの方達とVLRを皆で交換してやっていこうという話もありまして、再来年度に向けて来年度が動き出すかなと思っています。

あと、もう一点、内閣府の方でも連携プラットフォームというのがあるので、そこと連携して、プラットフォーム会合ごと一緒にやるか。私もその管理をしていますので、連携

してやると広がりも出ると思います。

(事務局)

ありがとうございます。ご意見を踏まえて、普及啓発に取り組みたいと思います。ハワイの件につきましては、蟹江委員からご紹介があって、ハワイ側にはメール送って、一応アプローチを始めてはいるのですが、未だ進んではいません。VLR についても、報告書を作る際にご提言いただいております。来年度はフォーラムの準備もあり、手が回らなさそうなのですが、その後、国の動きも見ながら、どこかのタイミングでアクションプランの見直しみたいなのところも重ねてできればいいなと思っているところです。

(玉城座長)

私から一点。県内大学が共通として作っている大学コンソーシアムで、来年度 SDGs 科目を私が担当することになりまして、その中に、OIST さんとハワイ大学がオープン参加します。ハワイ大学沖縄研究所もありまして、沖縄の SDGs をしっかりと訴えていく、そこを一度進めていこうと思っています。8月に県内の大学生と一緒にやったプロジェクトがあり、発表会をやる予定でそこに企業とかも招いて連携することにしています。

(平本委員)

先ほど蟹江委員に触れていただきましたが、私たちから後追いでも評価レポートを出すという件です。これはかなり大事な事だと思っています。今回のような報告書が県から出されて、それで終わりみたいな形になってしまうと、それは全然 SDGs の考え方に沿っていないと思います。

SDGs はみんなで作えながらやって行くということなので、県からレポートが出ました、アドバイザーボードからも出します、例えば、専門部会からも有志のチームで出してもらい、それ以外に市民や若者の人達であったり、そういう形を出してもらって対話を進めていくということを、少しずつ形作っていく必要があると思うのですね。

なので、最初はイメージつかないのであれば、じゃあ私達からやりましょうということ、やるのですけれども、それで完璧ではなくて、その後はちゃんと集まってもらって、同じようなことをやってもらいよ、という形で一個一個できればいいなと思います。

そういう意味では、私たちは、やろうと言った時になかなか音頭をとるのが難しいところもあるので、オンラインでもいいので、また来年度、5月なのか6月なのかわかりませんが、そういったことを想定した上で一度集まる機会をセッティングしていただけると、ありがたいなと思います。チャットツールでグループを作って議論するようなイメージでもいいですし、検討していただけるとありがたいです。

(事務局)

ここは、すぐにお答えすることが難しいので、座長とも相談しながら、検討させていただいてよろしいでしょうか。

(玉城座長)

議論をしていくという前提で、事務局と一緒に宿題として持ち帰らせていただいてよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

(事務局)

行政でとりまとめると、ファクトブックの要素が強くなってしまうという点や、行政としてサマリーが書きづらいところがありますので、ご指摘の通りかと思います。引き続き、検討させてください。

委員の皆様、活発なご意見、ご議論をいただきありがとうございます。本日の会議につきましては事務局にて議事概要をまとめますので、ご確認等の御協力をお願いします。

では、以上を持ちまして、令和5年度第2回SDGsアドバイザーボード会議を終了いたします。ありがとうございました。